Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-06-14

正路倫之助先生の思い出（特集 開学当時の思い出 II.小川瑳五郎初代校長と正路倫之助初代学長のプロフィール）

松田，実

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌,10:77-78

(Issue Date)
1994-06

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81007335

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007335

正路倫之助先生の思い出

松　田　　実（28年卒）

正路先生は，短かく切られた白髪と赤ら顔が印象的であり，堂々とした体格は古武士の風格を思わせるものがあった．ある時先生は，もし私が脳出血をおこしたら大いに体をゆさぶってくれと言われたのを思い出す．当時，脳出血は絶対安静が必要で体を動かすことは禁忌であると聞かされていたが，先生は，半身不髄で生きることを潔ぎよしとせず，死を選びたいと思っておられたのであろう．

またある時先生は，若い医者は看護婦から好かれるし，片言のドイツ語を使って話をされるとついほれてしまうが，よく人柄を見つめよと言われた．私が診療所に出張した時は大勢の看護婦に囲まれて気分がよかったが，正路先生の言葉を常に思い出し，婦長以外の看護婦と特に仲良くなることを避けたために，無事大学へ戻ることができたと思っている．

学生時代の思い出

私の家は貧しかったので，当時の学生部長であった馬渕先生に，奨学資金の貸与を申込みにいったところ，先生から，成績が十番以下になったら即刻返済せよといわれた．後から考えるとおどかしのように思われたが，当時はまじめに考え，勉強せざるを得なかった．卒業するまで毎月2,100円戴いたが，授業料と交通費を払っても尚少し余ったことを覚えている．昭和42年に全額返済したが，奨学生手帳は，私の学生時代の思い出として，今でも机の引出しにしまってある．

家と学校の間を往復するだけであった私には，神戸の街の思い出は少ない．進駐米軍の払い下げ衣服を売っていたつるや貿易にアルバイトに行った時は，神戸女学院の学生もきており，今でも2，3の学生の顔を覚えているが，当時の私にとっては姉のような存在であり近づきがたかった．

卒業後すぐ大阪へ出た私には，先生の思い出は限られたものでしかない．楢林先生に，レントゲン所見を英語で書いてみせた時は一笑に附されたが，その後時に学会でお逢いし，北野クラブへ連れていって戴いたことがある．この時先生に，私達を教えて下さったのはおいくつの時でしたかと聞いたところ，39歳と答えられその若さに驚いたものである．

辻先生の講義は，黒板に字を書かれることもなく，ペラペラとしゃべられるだけでノートのとりようがなくて困ったが，ドイツのデュセルドルフ大学で白血病の講義を聞く機会を得た時，辻先生と全く同じスタイルの講義であり，この時辻先生を思い出し，辻先生もドイツへ留学されたのであろうと思った．（間違っていたらおわび致します）

眼科の井街先生は，よく頭をあけると……と言われたことが私の頭にこびりついている．佐野先生は，大阪へお見えになってからもあの童顔は少しもかわらない．思い出はつきないものです．　（元大阪府立成人病センター部長）